

# SpectraView® デモンストレーションバージョン

－ 目次 －

1. デモバージョンについて
2. インストール
3. SpectraView の概要
4. SpectraView の操作
5. アンインストール

2010/04

(株)ハビリス

<http://www.habilis.co.jp>

[sv@habilis.co.jp](mailto:sv@habilis.co.jp)

## 1. デモバージョンについて

### (1) 動作環境

本プログラムは WindowsNT4.0/2000/XP、グラフィック 1024x768 以上で動作します。  
Windows95/98/Me では動作しません。ご注意願います。

### (2) 制限事項

デモバージョンには製品版とくらべて次のような制限事項があります。

- a. GX-1を接続できません。  
ダミーのデータ収録が組み込まれています。
- b. CSV のインポート、TAFMatのインポートとエクスポートができません。
- c. グラフ表示とグラフ印刷に「DEMO」の文字が表示されます。

### (3) その他

本ソフトウェアの仕様は予告なく変更する場合があります。

記載されている会社名・商品名は、各社の商標または登録商標です。

## 2. インストール

- a. CD-ROM の「SETUP.EXE」を実行してください。
- b. プログラムフォルダは「C:¥Program Files¥SpectraView DEMO」となります。  
以降の説明では、このフォルダ名で行っています。
- c. デスクトップに「SpectraView DEMO」のショートカットアイコンが作成されます。  
プログラムの起動はここから行ってください。

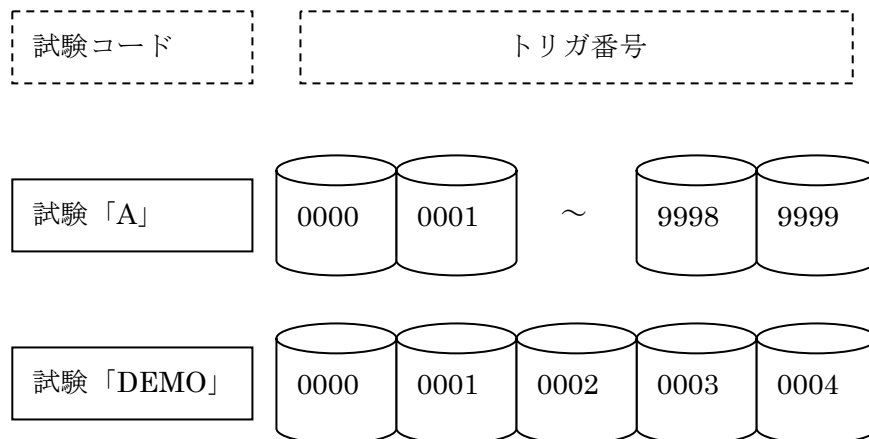
### 3. SpectraView の概要

#### (1) 収録

収録データはハードディスクに格納されます。

ユーザーは収録毎に「試験コード」を入力します。また、収録データファイルはトリガ単位に作成されます。

収録データファイル名には「試験コード」と「トリガ番号」が含まれています。



#### (2) 解析時のトリガデータ切替え

上記の図を、参照してください。

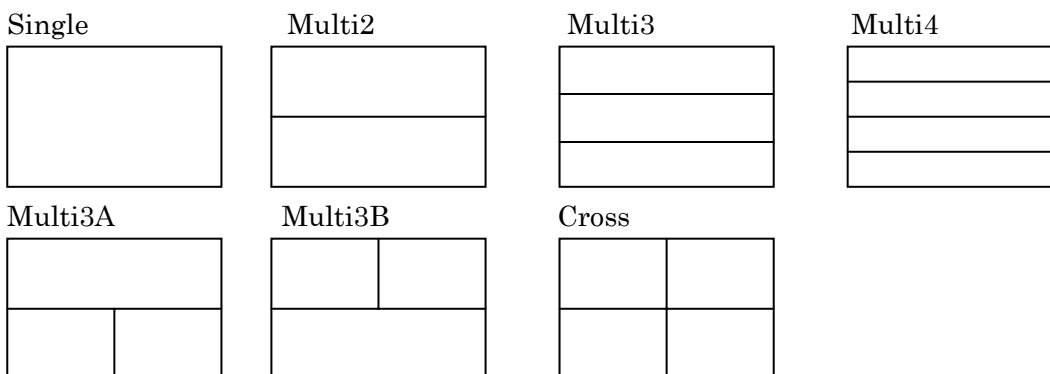
解析時、同一試験コードであれば、任意のトリガデータにグラフを切替えることができます。

「次のトリガ」「前のトリガ」もツールバーに用意してあります。

別の試験コードのデータを読み込むには「ファイル読み込み」から行います。

#### (3) 画面構成とグラフ

SpectraView には次のような画面構成があります。



上図の構成を選んだ上で、それぞれの矩形内に表示したいグラフを選択します。

上記構成とグラフの種類は保存しておくことが可能です。

ただし、計測中と解析、グラフの種類によっては選択できないグラフの種類もあります。

※グラフの種類... TY、XY、FFTなど。

## 4. SpectraView の操作

SpectraView の操作の一部をご紹介します。

### (1) 環境設定

SpectraView を起動して環境設定を行います。

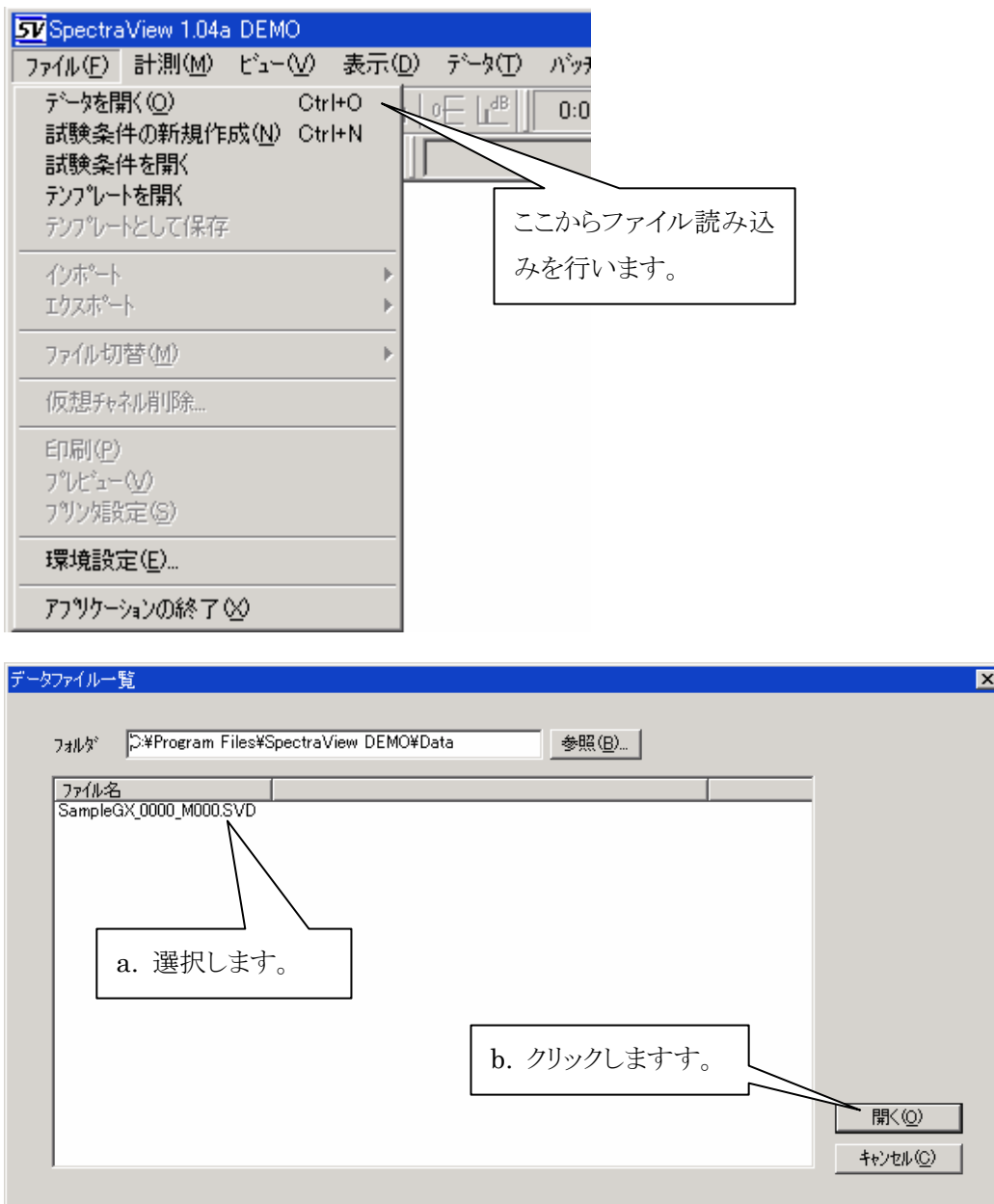
The image shows two screenshots from the SpectraView 1.04a DEMO software. The first screenshot shows the 'File' menu with '環境設定(E)...' (Environment Settings) highlighted. A callout box points to this option with the text: 'ここから環境設定を行います。' (From here, you perform environment settings). The second screenshot shows the '環境設定' (Environment Settings) dialog box. The 'Template Folder' and 'Data Folder' fields are both set to 'C:\Program Files\SpectraView DEMO\Data'. A callout box points to these fields with the text: 'このふたつにデータパスを入力してください。' (Please enter the data path in these two). Other settings in the dialog include '試験コード毎にフォルダを作成' (Create folder for each test code) which is unchecked, 'グラフ背景色' (Graph background color) set to white, 'グリッド色' (Grid color) set to gray, 'ピーク検出係数 (ポイント)' (Peak detection coefficient (points)) set to 2, 'dB校正ビュー 分割パターン' (dB correction view division pattern) set to 'マルチ4', 'ハルスデータ' (Hals data) with '積算表示' (Integration display) unchecked and 'トリガ位置 = 0' (Trigger position = 0) unchecked, 'DCカット' (DC cut) with 'fc' (cut-off frequency) set to 0.5 and '次数' (order) set to 3, and 'XYグラフ' (XY graph) with '表示タイプ' (display type) set to '線' (line) and 'トリガ発生時にグラフをクリアしない' (Do not clear graph when trigger occurs) unchecked.

テンプレートフォルダ と データフォルダに

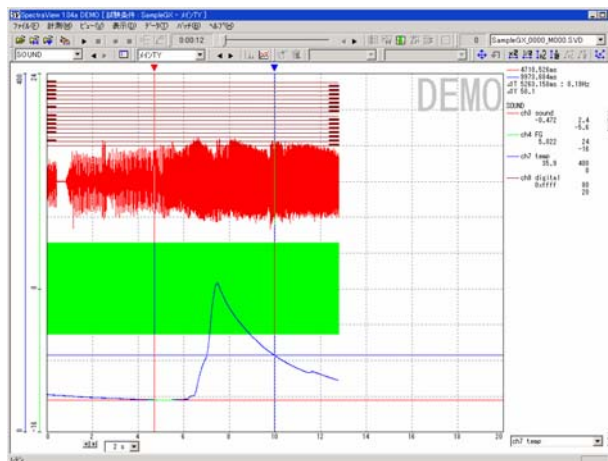
「C:\Program Files\SpectraView DEMO\Data」を設定してください。

## (2) データファイルの読み込み

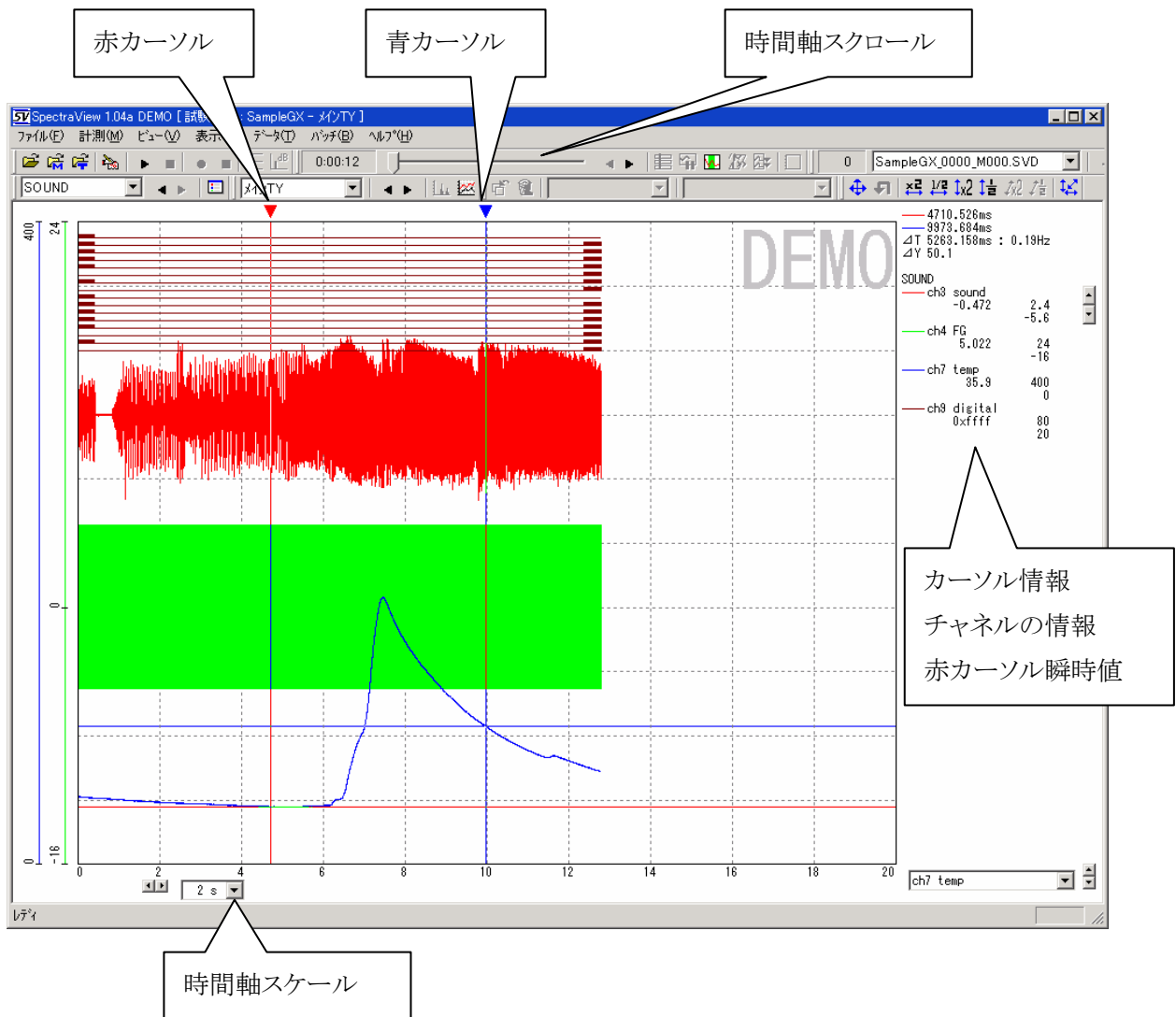
データファイルを読み込みます。デモバージョンでは2トリガ分のデータが収録してあります。



画面にTYグラフが描画されます。

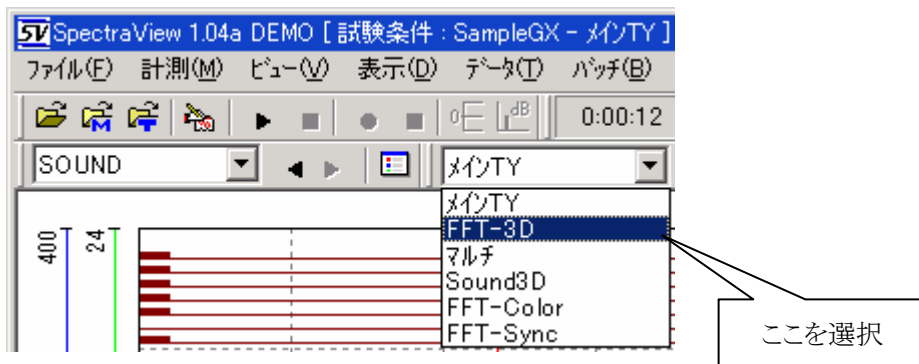


(3) TYグラフ

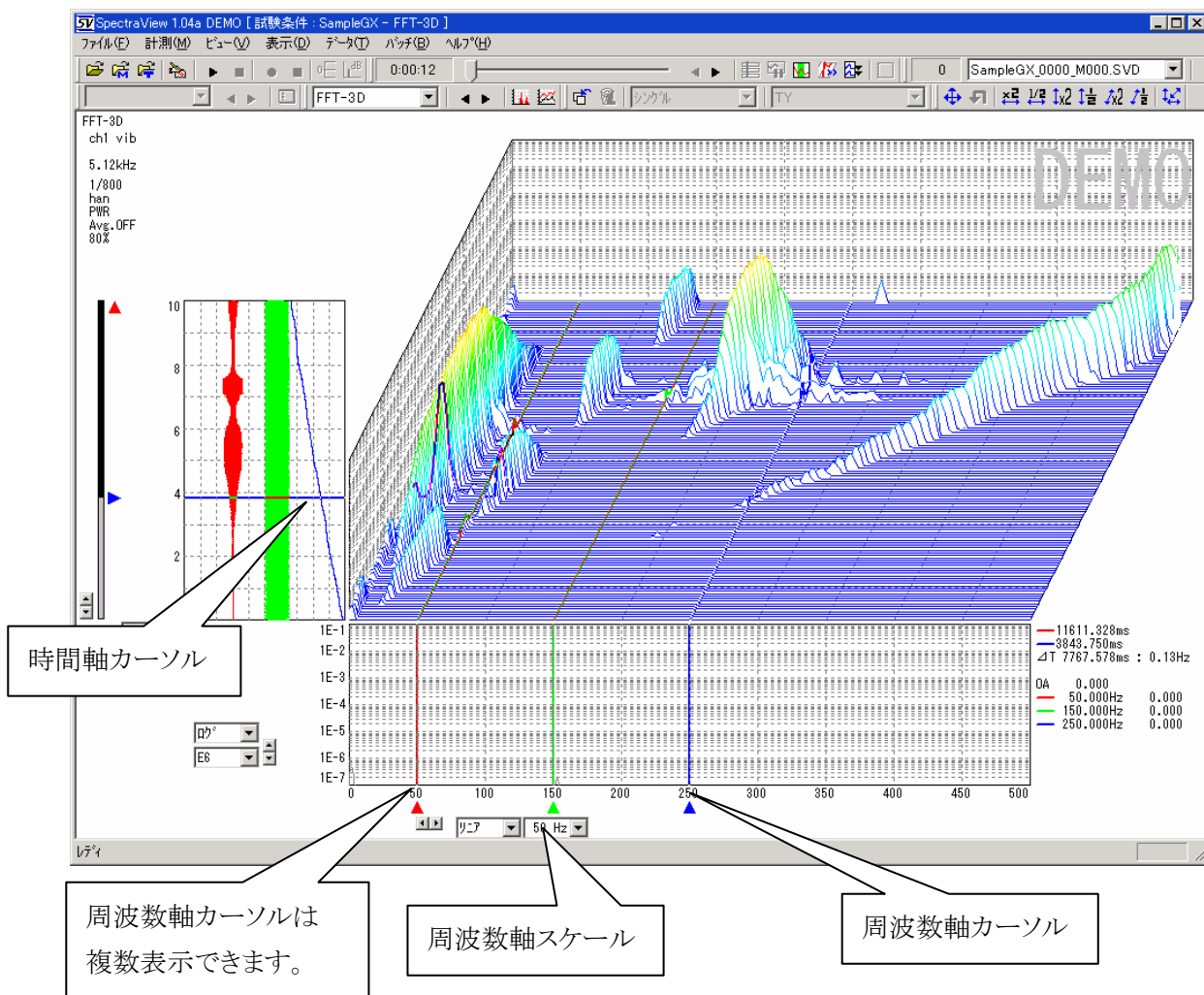


#### (4) FFT3Dグラフ

a. 画面をFFT3Dグラフに切替えます。

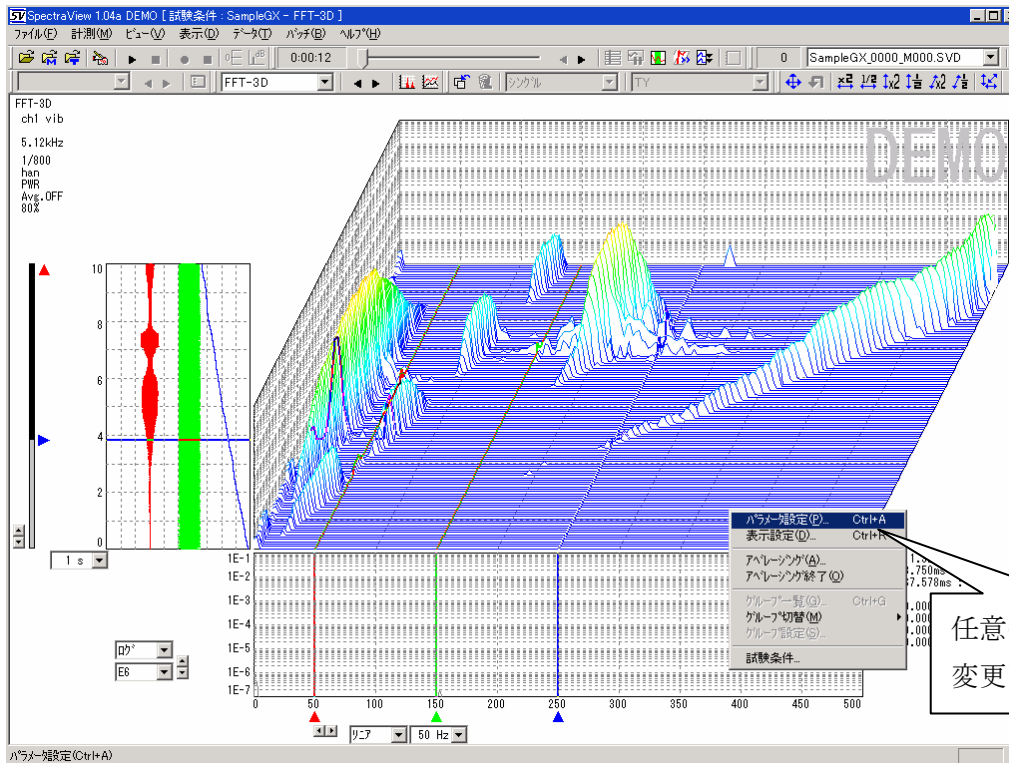


b. FFT3Dグラフが表示されます。



### c. FFTパラメータ

右クリックのメニューからパラメータを変更できます。



The 'グラフ設定' (Graph Settings) dialog box is shown. It has tabs for '表示' (Display), 'プロット' (Plot), 'カーソル' (Cursor), and 'FFTパラメータ' (FFT Parameters). The 'FFTパラメータ' tab is active. The settings are as follows:

チャンネル	ch1 vib
<input type="checkbox"/> AC	
分解能	800
フレーム長	2048
オーバーラップ	80 %
窓関数	ハンチング
係数	100
密度	PS
単位	PWR
<input type="checkbox"/> rms	
特性	フラット

リアルタイム アベレージング

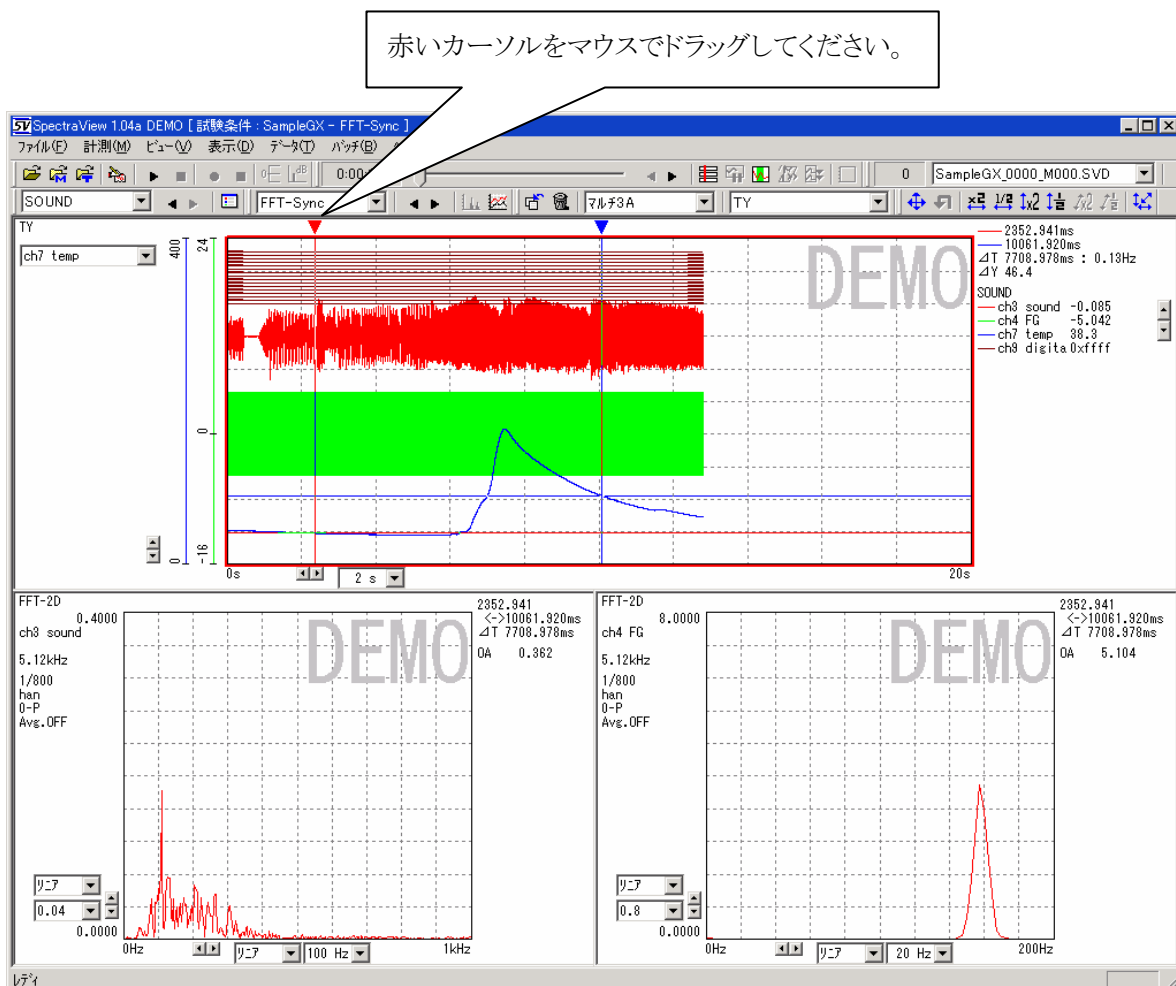
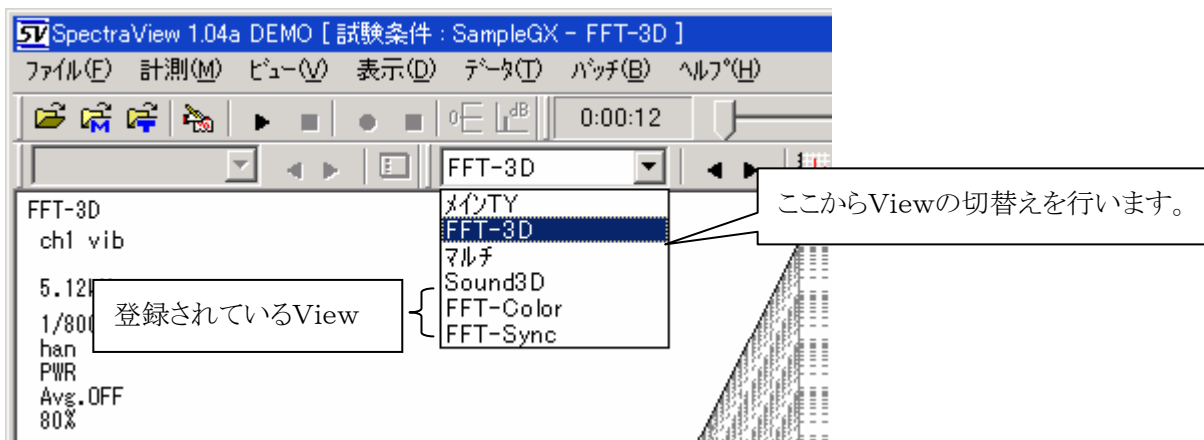
<input type="checkbox"/> ON	方向	リカ(1フレーム)
	アベレージング	ピークホールド
	回数	2

Buttons: OK, キャンセル

生データをハードディスクに収録しているため、再解析が容易です。

(5) View

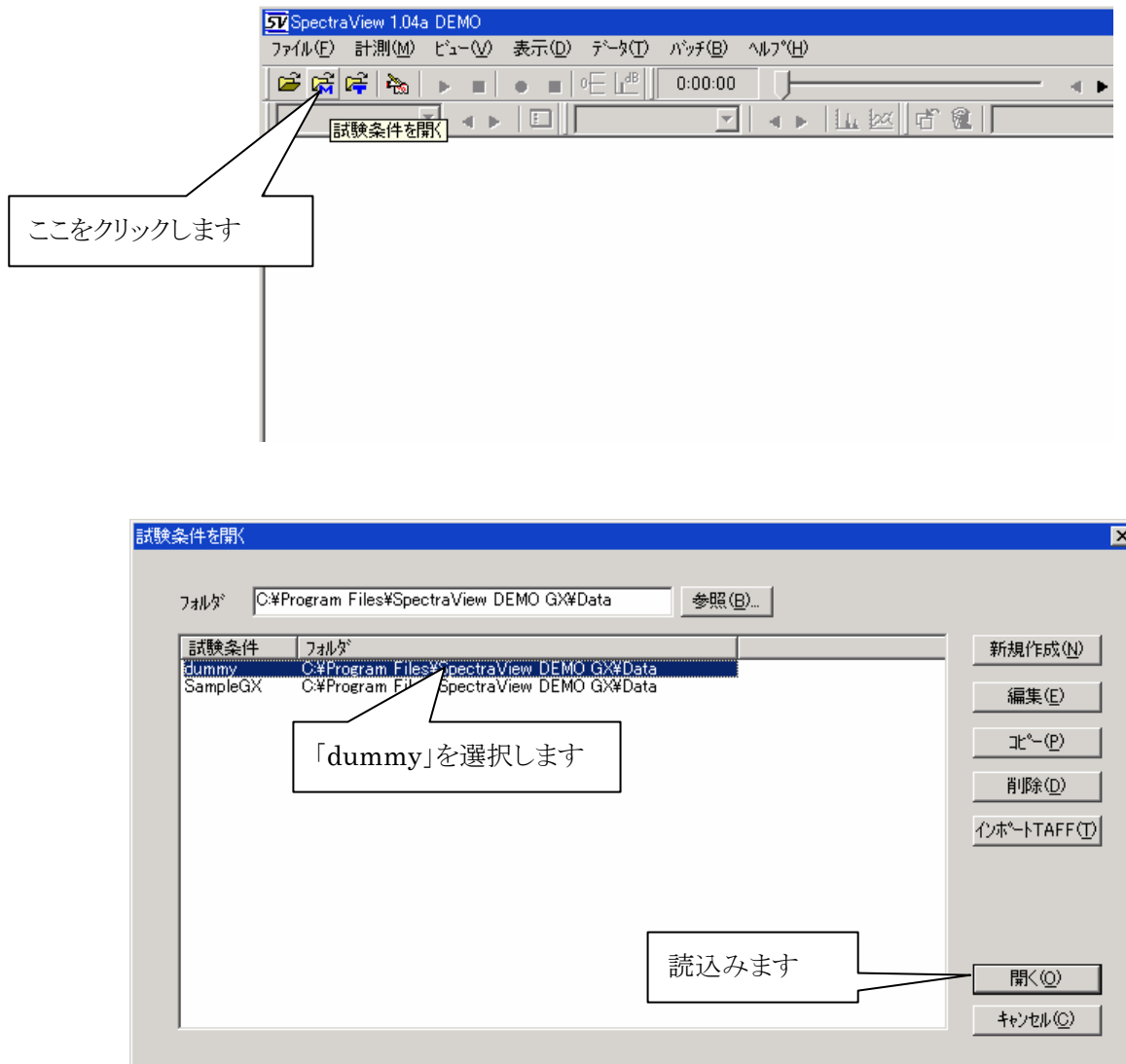
a. 切替え



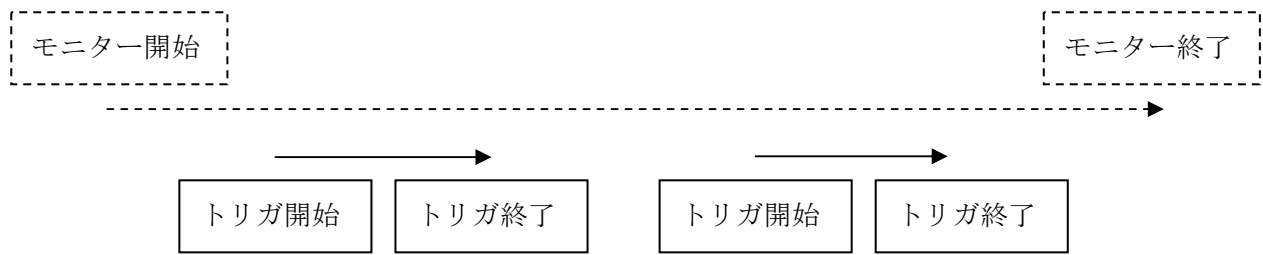
## (8) 計測

このデモバージョンでは、GX-1は接続できませんが、ダミー収録機能が組込んであります。  
この機能を使って収録の様子を見ることができます。

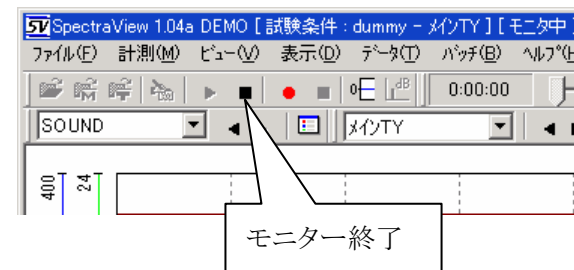
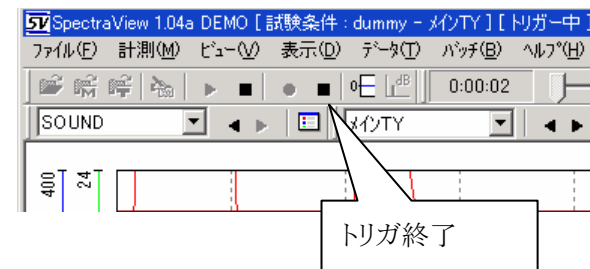
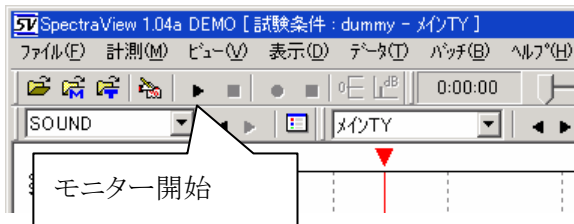
a. 計測条件を読み込みます。



b. 計測の手順です。



※トリガ成立期間のデータがハードディスクに格納されます。



## 5. アンインストール

「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」から、SpectraViewの削除を行ってください。  
フォルダ「C:\Program Files\Spectra View DEMO」は、手作業で削除してください。